

## 審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1356 号	氏名	烏山 昌起
審査担当者	主査	高 須 修	(印)
	副主査	石 藤 公 昭	(印)
	副主査	中 野 英 夫	(印)
主論文題目：Clinical outcomes in patients with retear after arthroscopic rotator cuff repair: A meta-analysis (鏡視下腱板修復術後再断裂症例の臨床成績：メタ解析)			

### 審査結果の要旨 (意見)

本学位論文研究は、鏡視下腱板修復術後症例を対象に再断裂の有無が臨床研究に及ぼす影響をメタ解析によって検討されている。再断裂症例の臨床成績に関しては、これまでにメタ解析が行われた論文が少ないため不明な点が多いが、本学位論文研究では3つの手術手技が各々統合されており、多くのアウトカムが検討されている。臨床成績の統合は、研究間の断裂サイズや手術手技のバラツキが考慮され、変量効果モデルが採用されている。また、各アウトカムでは研究間の異質性や必要に応じて出版バイアスの解析が検討されている。本学位論文研究の結果から考えると、鏡視下腱板修復術後の再断裂は、疼痛の増加と肩運動機能、関節可動域、筋力の低下を引き起こす可能性が示唆される。しかしながら、これらの知見の臨床的意義に関しては、更なる研究が期待される。本学位論文研究は、鏡視下腱板修復術後再断裂症例の臨床成績を立証したものであり、新たな知見を提供している。以上より、本研究は、博士(医学)の学位に相応しいものと判定した。

### 論文要旨

本研究の目的は鏡視下腱板修復術後の再断裂が臨床成績に及ぼす影響を検討することである。

PubMed、The Cochrane Library、Scopus、PEDro のデータベースから論文を検索した。解析は、治癒群と再断裂群の臨床成績を比較するために変量効果モデルを使用した。

検索は3141編が抽出され、そのうち26編が包括基準を満たした。解析の結果、再断裂群は治癒群と比較して Constant score[-8.51点;P<0.001]、ASES score[-12.53点;P<0.001]、UCLA score[-3.77点;P<0.001]が有意に低く、pain score [0.56 cm;P=0.02]が有意に高かった。再断裂群の関節可動域は屈曲[-10.46° ;P=0.03]、外転[-14.84° ;P=0.03]、外旋[-7.22° ;P=0.03]が有意に低く、筋力は屈曲[-1.65kg・f;P<0.001]、外転[-1.87kg・f;P=0.001]、外旋[-1.66kg・f;P=0.04]が有意に低かった。

本研究より鏡視下腱板修復術後の再断裂は臨床成績の低下に関連することが示唆された。